

マジック釣り大会参加者にインタビュー！！

隈さんファミリー（赤田）

▶右から、隈学さん、仁美さん、幸歩さんと友人の碓野さん



毎年家族で参加しています。マジックを釣るのはなかなか難しいのですが、孫の快正は5回、幸歩は2回ほど参加していて、少しずつ上達していますね。ことしは10匹以上釣りあげたようです。マジックが筆に引っかかった時の重みが結構あるので、釣りあげる瞬間の競い合いが奥深く面白いですね。夏の楽しみの一つになっているので、これからも参加していきたいです。

高森さんファミリー（岱洋中）

▶右から小俣由起子さん、高森フジエさん、小俣悠介くん



私は初めて参加しましたが、孫の悠介は2回目の参加です。とてもにぎやかなイベントで、周りの歓声を聞いているだけで楽しいですね。何回かは釣れそうなチャンスがあったのですが、うまくマジックの爪をつかめずに逃がしてしまいました。普段は干潟に来ることはあまりないのですが、とてもきれいな場所です。荒尾の豊かな自然をこれからも守っていきたいです。



イベントフォトレポート Vol.1

荒尾マジック釣り大会



みんな僕を釣ろうと必死だったみたいだね。僕は簡単には釣られませんよ（キリッ！）

7月30日、荒尾マジック釣り大会を荒尾漁協前の干潟で開催しました。当日は晴天と天候にも恵まれ、県外からも多くの参加があり、800人ほどがマジック釣りを楽しみました。マジックは干潟に作った巣穴に異物が入ると、異物を敵と判断して押し出す習性があります。その習性を利用して、干潟に「釜たて」と呼ばれるくぼみを掘り、巣穴に毛筆を差し込んで、筆を押し上げてきたマジックを引き上げます。筆を使った駆け引きの末、やっこの思いでマジックを釣った参加者は大きな歓声を上げて喜んでいました。最後にはお楽しみ抽選会やマジックの天ぷらのふるまいも行われ、会場には参加者たちの笑顔が溢れていました。

1・2・5・6・8・9・10・11_マジック釣りを楽しむ参加者。釣れた喜びに笑顔を見せていました
3_マジック 4_おたのしみ抽選会 7_釜たてをしてマジックの釣り場を作ります



地域おこし協力隊 活動便り Vol.2

荒尾市地域おこし協力隊の4人の隊員は、最長3年の任期のもと、荒尾の魅力を知り、その魅力を伝え広げる活動を日々行っています。

主な活動内容や印象に残った出来事をそれぞれの隊員に語っていただきました。

◆白井恒良隊員（1月着任／広報担当）

九州は昔から陶磁器文化が盛んです。休日も他地域の陶磁器の窯元やギャラリーを回っています。それに付け、小代焼がとても手間暇かけて作り出される陶器だと思い知らされます。一人でも多くの人に小代焼を知ってもらえるよう情報を発信していきます。

◆須田賢士郎隊員（1月着任／広報担当）

- グリーンアベニュー地域振興会主催の「まちゼミ」の取材で13店舗を回りました。ためになる講座ばかりでした。
- 7月16日グリーンランド開園50周年記念セレモニーで1歳から50歳の総勢50人の26歳枠で、テープカットに参加しました。



▲味噌作りで大豆を洗う準備をする折敷田生活改善グループのみなさん

◆前田道範隊員（3月着任／農業振興担当）

長雨の影響で、樺地区のオリーブは一部で梢枯病、炭疽病の木が見られるため、病害虫の駆除をしています。

オリーブ林で卵を温めていたキジが先日羽化し、巣立ちました。梅雨前から見守っていたので無事巣立って安心しています。

◆前田優隊員（3月着任／観光振興担当）

梨の花ウォークで出されるおいしい豚汁に使われる折敷田味噌。約30年前から地域の人の手で作られており、後継者不足が悩みです。10月22日(土)には観光協会主催で味噌作り体験が行われます。多くの人に来てもらえるよう、告知のお手伝いをしています。

荒尾の魅力、荒尾の情報をFacebook、Instagramで発信中



荒尾市地域おこし協力隊 Facebook



荒尾市地域おこし協力隊 Instagram



▲人生初のテープカットに臨む、須田隊員（右端）